第一章

序論

1.1　問題背景

日本文法のクラスを知っているという言葉を 10 に分かれている。それは、動詞、形容詞、形容動詞、名詞、福祉、連体詞、接続詞、感動詞、助動詞、上司ということである。1 つの日本語文法は動詞である。

ふつはインドネシア語中に、動詞は何にか状況を使うことがである。しかし、日本語の言語では、いくつかの言葉があるように聞こえる音声を別の言葉の意味は非常に似ている類義語ということである。類義語の使用が多いである。

筆者の経験に基づいて、あがるとのぼるの使用では、新しい日本語を学ぶ学生で発生する。生徒を区別することができないので、これらの二つの動詞のそれぞれの機能を理解し、この現象が発生することがである。これは、判決ではミスを犯すことが動詞を使用して、二つを区別するため、日本語を学習するため新しい生徒を作ることができる。

筆者の観察によると、インドネシア．コンピューター大学の日本語学科の２００６．２００７学生の三年生もそんな問題を困っている。その理由で、筆者は研究したいと思う。

1.2　問題設定

上記の述べた問題の背景に基づいて、当研究の答えようとうる問題は以上の通りである。

１．日本語の動詞「あがる」と「のぼる」の使用の誤用は何か。

２．動詞「あがる」と「のぼる」の使用の誤りの原因は何か?

３．上記の１，２の問題を減らすための対策は何か。

1.3　問題の目的

研究の目的におよび意義は次のようである。

１．日本語の動詞「あがる」と「のぼる」の使用の御用を知るためだる。

２．動詞「あがる」と「のぼる」の使用の誤りの原因を知るためである。

３．上記の１，２のもんだいを減らすため対策を知るためである。

1.4　研究の利益

以上の的に基づいて、この研究の意義は次のようである。

１．日本語の学生のために、特に、Unikom の学生。本研究は、日本語の動詞「あがる」と「のぼる」について使用の御用することができると思う、

２．日本語の先生のために、特に、Unikom の先生。本研究は日本語の

動詞「あがる」と「のぼる」について使用の誤用知ることができると思う。

３．日本語の学習者のために、日本語の動詞「あがる」と「のぼる」使い分けについてもっと方向することができると思う。

1.5　本論の構成

第一章、序論

第一章では問題の背景、問題の設定、問題の目的、研究の利益、本論の構成をのべる。

第二章、基本的な理論

第二章では日本語のどうし、あがるとのぼるの使用、言葉の誤用分析、誤用分析の目的は言葉を述べる。

第三章、研究の方法

第三章では研究の方法、データを収集の技法、データの分析の技法、および研究の対象を述べる。

第四章

第四章ではデータ収集と加工の方法、研究技法からみて、データを技法と解釈を述べる。